



HSホールディングス

2022年3月期

決算説明資料

本資料は、当社の2022年3月期における連結業績の概要及び今後の経営展望に関する情報の提供を目的としたものであり、当社の発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料には当社の将来に関する記述が含まれております。当該記述は当社の将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。従って、将来の業績に関しては、当社の経営環境の変化等により変更を余儀なくされることがあることにご留意下さい。

商号	HSホールディングス株式会社 (HS Holdings Co., Ltd.)		
代表者	代表取締役社長 原田 泰成		
所在地	東京都新宿区西新宿六丁目8番1号 住友不動産新宿オークタワー27階		
設立	1958年(昭和33年)1月21日		
資本金	12,223百万円		
グループ会社数	〔連結子会社〕4社 〔持分法適用関連会社〕2社		
従業員数	〔グループ全体〕 5,752名	(当社単体)	5名
		(連結子会社)	5,143名
		(持分法適用関連会社)	604名

【株式情報】

上場市場	東京証券取引所 STANDARD市場
証券コード	8699
発行済株式総数	40,953,500株
時価総額	53,239百万円

2022年3月末時点

1958年 1月	当社(協立証券(株))設立
1999年 3月	H.I.S.の創業者、澤田秀雄が当社代表取締役社長に就任 (2016年11月より代表取締役会長に就任)
1999年 4月	エイチ・アイ・エス協立証券(株)に商号変更
2001年 4月	エイチ・エス証券(株)に商号変更
2004年10月	大阪証券取引所ヘラクレスに株式上場 ※ 現在は東京証券取引所STANDARD市場に株式上場(証券コード:8699)
2006年 9月	エイチ・エス証券分割準備(株)(当社の証券事業の受皿会社)を設立
2007年 4月	澤田ホールディングス(株)に商号変更し、持株会社体制に移行 エイチ・エス証券分割準備(株)はエイチ・エス証券(株)に商号変更し、当社の証券事業を承継
2021年12月	澤田秀雄が当社代表取締役会長を退任し、新経営体制へ移行 HSホールディングス(株)に商号変更(2022年1月1日より)
2022年 3月	エイチ・エス証券(株)を売却

〔連結子会社〕4社 〔持分法適用関連会社〕2社

《主要関係会社》

● 連結子会社 ▲ 持分法適用関連会社

2022年3月末時点

主な業種	会社名	議決権比率
銀行	● ハーン銀行 (Khan Bank LLC) ※1	55.30%
	● キルギスコメルツ銀行(OJSC Kyrgyzkommertsbank)	52.90%
	▲ ソリッド銀行 (JSC Solid Bank)	46.80%
証券	エイチ・エス証券株式会社 ※2	— %
債権管理回収	● エイチ・エス債権回収株式会社	100.00%
外国為替保証金取引	▲ 株式会社外為どっとコム	40.19%

※1 当社の連結子会社であるH.S.International (Asia) Limitedは、2022年1月28日付で、その保有するハーン銀行株式の一部をハーン銀行へ売却しており(その後、ハーン銀行からハーン銀行従業員へ売却)、その結果、当社の議決権比率が減少しております。(60.00% → 55.30%)

※2 当社は、2022年3月31日付で、その保有するエイチ・エス証券株式の全てを売却しており、その結果、当社の連結子会社から除外されておりますが、当期のセグメント業績には含まれております。

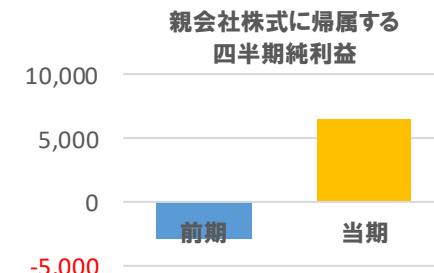
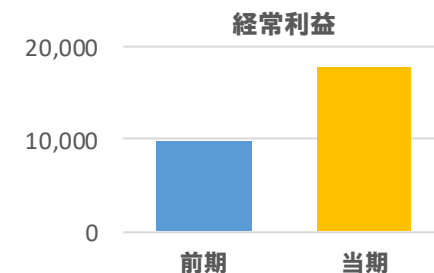
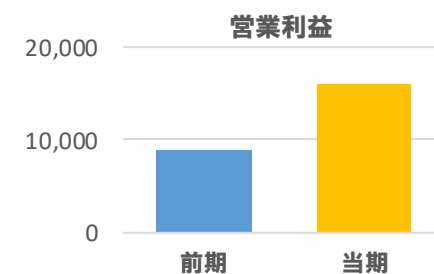
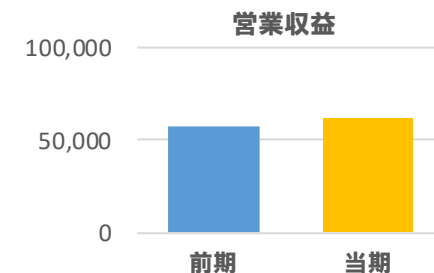
《主要関係会社の設立又は当社グループ加入の経緯》

● 連結子会社 ▲ 持分法適用関連会社

会社名	沿革（設立又は当社グループ加入の経緯）
● ハーン銀行（Khan Bank LLC）	2003年 国際競争入札により株式を取得
● キルギスコメルツ銀行（OJSC Kyrgyzkommertsbank）	2017年 株式を取得
▲ ソリッド銀行（JSC Solid Bank）	2012年 第三者割当増資により株式を取得
エイチ・エス証券株式会社	2006年 設立（2007年 当社の証券事業を承継）
● エイチ・エス債権回収株式会社	2006年 設立
▲ 株式会社外為どっとコム	2005年 株式を取得

(単位:百万円)

科目 \ 期間	2021年3月期 (2020年4月～2021年3月)	2022年3月期 (2021年4月～2022年3月)	前期比
営業収益	57,755	61,566	106.6%
純営業収益	28,164	38,116	135.3%
営業利益	8,871	15,993	180.3%
経常利益	9,723	17,813	183.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	△3,015	6,545	— %



(単位:百万円)

科目 \ 期間	2021年3月期 (2021年3月末時点)	2022年3月期 (2022年3月末時点)	前期末比
総資産	499,591	577,449	115.6%
純資産	71,343	74,427	104.3%
現預金	92,317	88,137	95.5%

連結業績の主な増減要因

■【銀行関連事業】 ハーン銀行は増収増益

モンゴル最大の商業銀行であるハーン銀行(Khan Bank LLC)は、新型コロナウイルス感染症の影響により前年大きく落ち込んだモンゴル経済の回復などにより融資残高及び資金運用収益が増加し、また、モンゴル政府が実施した施策により普通預金・当座預金に対する利息の支払いが免除されたことにより資金調達費用が大きく減少したことから、大幅な増収増益となった。

営業収益 551億62百万円（前期比 60億45百万円増）

営業利益 150億49百万円（前期比 70億31百万円増）

■【証券関連事業】 エイチ・エス証券(株)は減収減益

エイチ・エス証券は、米国の金利動向やロシア・ウクライナ問題等の影響により、主に年後半にかけて取引量が大幅に減少したため減収減益となった。

営業収益 34億79百万円（前期比 2億67百万円減）

営業利益 4億72百万円（前期比 89百万円減）

■【債権管理回収関連事業】 エイチ・エス債権回収(株)は減収増益

エイチ・エス債権回収は、不良債権市場に供給される債権の減少が続いており、その影響から債権の仕入価格の高騰、ひいては買取債権残高の減少傾向が続いていたことから、大幅な減収となった。一方で、貸倒引当金の算出プロセスの変更により原価が減少し(492百万円)、営業利益は大幅に増加している。

営業収益 29億53百万円（前期比 18億14百万円減）

営業利益 5億10百万円（前期比 2億40百万円増）

2022年3月期 (2021年4月1日～2022年3月31日)

(単位:百万円)

科目 \ セグメント	銀行 関連事業	証券 関連事業	債権管理回収 関連事業	IT 関連事業	その他事業	連結
営業収益	55,162	3,479	2,953	-	9,901	61,566
営業収益の内訳 (外部/内部)	外 55,162 内 -	外 3,446 内 32	外 2,953 内 -	-	外 3 内 9,897	-
営業利益	15,049	472	510	-	9,436	15,993
経常利益	15,049	500	412	-	11,615	17,813

2021年3月期 (2020年4月1日～2021年3月31日)

(単位:百万円)

科目 \ セグメント	銀行 関連事業	証券 関連事業	債権管理回収 関連事業	IT 関連事業	その他事業	連結
営業収益	49,117	3,746	4,767	217	244	57,755
営業収益の内訳 (外部/内部)	外 49,117 内 -	外 3,650 内 96	外 4,767 内 -	外 215 内 1	外 3 内 240	-
営業利益	8,017	561	270	△47	△69	8,871
経常利益	8,017	583	154	△49	1,103	9,723

※ 営業収益の内訳(外:外部顧客に対する営業収益/内:セグメント間の内部収益又は振替高)

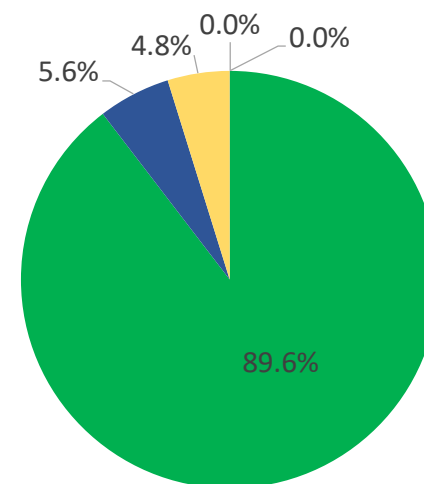
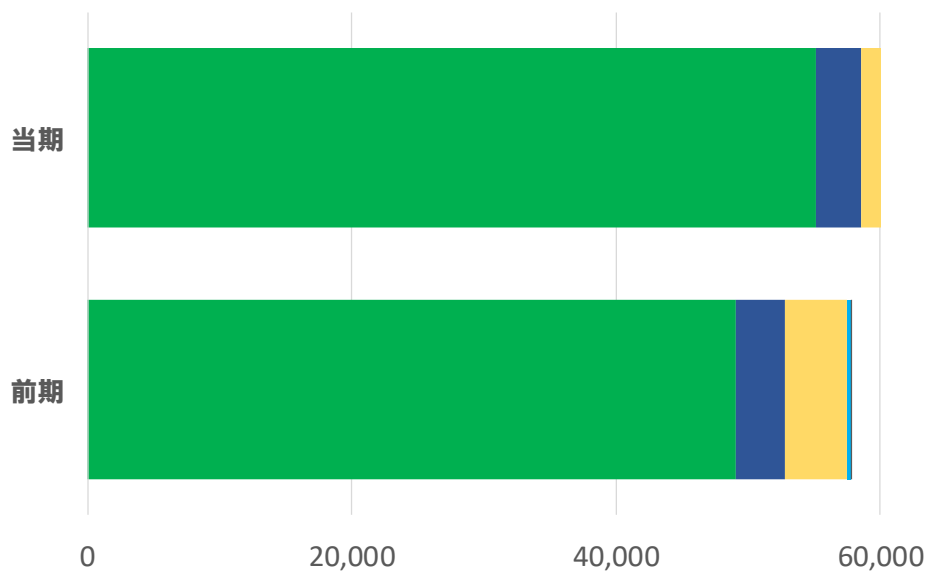
※ 連結は、セグメント間の内部収益を控除後の数値を表示。

セグメント別営業収益（外部顧客に対する営業収益）

（単位：百万円）

セグメント	期間	2021年3月期 (2020年4月～2021年3月)	2022年3月期 (2021年4月～2022年3月)	前期比
銀行関連事業		49,117	55,162	112.3%
証券関連事業		3,650	3,446	94.4%
債権管理回収関連事業		4,767	2,953	61.9%
IT関連事業		215	-	-%
その他事業		3	3	93.5%
合計		57,755	61,566	106.6%

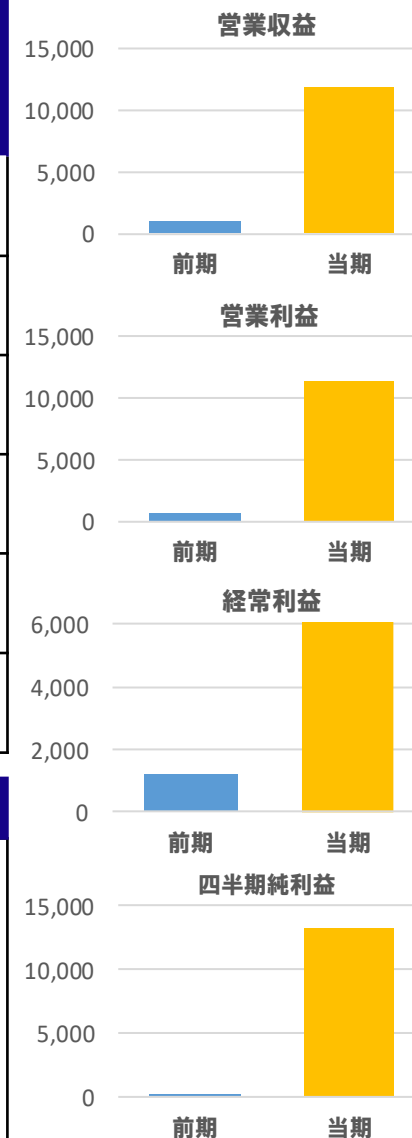
■ 銀行関連事業 ■ 証券関連事業 ■ 債権管理回収関連事業 ■ IT関連事業 ■ その他事業



構成比率(当期)

(単位:百万円)

科目 \ 期間	2021年3月期	2022年3月期	前期比
営業収益	999	11,911	1,191.4%
営業利益	687	11,446	1,666.1%
経常利益	1,172	12,453	1,062.4%
当期純利益	106	13,149	12,396.6%
総資産 【前期末 / 当期末】	27,448	31,140	113.5%
純資産 【前期末 / 当期末】	27,305	30,348	111.1%



主な増減要因

- 関係会社からの配当金が増加したことに伴い、前期比で大幅な増収増益。
(ただし、関係会社配当金・経営管理料は内部取引のため、連結業績には影響しない)
- 前期は関係会社株式評価損509百万円、関係会社株式売却損231百万円を特別損失に計上した一方で、当期はエイチ・エス証券売却による関係会社株式売却益2,171百万円を特別利益に計上したため、当期純利益は前期比で大幅な増益となった。

(単位:百万MNT)

商号	ハーン銀行(Khan Bank LLC)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目</th> <th>2020年12月期</th> <th>2021年12月期</th> <th>前期比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Interest income (資金運用収益)</td> <td>1,116,664</td> <td>1,182,328</td> <td>105.9%</td> </tr> <tr> <td>Net interest income (純資金運用収益)</td> <td>413,014</td> <td>612,791</td> <td>148.4%</td> </tr> <tr> <td>Profit for the period (当期純利益)</td> <td>164,602</td> <td>291,529</td> <td>177.1%</td> </tr> <tr> <td>Total assets (総資産) 【前期末/当期末】</td> <td>12,151,761</td> <td>13,572,325</td> <td>111.7%</td> </tr> </tbody> </table>	科目	2020年12月期	2021年12月期	前期比	Interest income (資金運用収益)	1,116,664	1,182,328	105.9%	Net interest income (純資金運用収益)	413,014	612,791	148.4%	Profit for the period (当期純利益)	164,602	291,529	177.1%	Total assets (総資産) 【前期末/当期末】	12,151,761	13,572,325	111.7%
科目	2020年12月期		2021年12月期	前期比																		
Interest income (資金運用収益)	1,116,664		1,182,328	105.9%																		
Net interest income (純資金運用収益)	413,014		612,791	148.4%																		
Profit for the period (当期純利益)	164,602		291,529	177.1%																		
Total assets (総資産) 【前期末/当期末】	12,151,761	13,572,325	111.7%																			
所在地	モンゴル国 ウランバートル																					
資本金	172,097百万MNT (MNT:トゥグルグ)																					
議決権の所有割合	55.30%																					
主要事業	銀行業																					

会社プロフィール

- ① モンゴル国内に500店舗を超える支店ネットワークを有するモンゴル最大のリテール銀行
- ② スマートフォンアプリや非接触カードの提供等のデジタルバンキングサービスを推進

概況

- ハーン銀行の業績(現地通貨ベース)は、新型コロナウイルス感染症の影響は残っているもののモンゴル経済の回復により資金運用収益が増加し、政府が実施した預金利息免除の施策により資金調達費用が大幅に減少した。また、前期は2020年1月に年金担保ローンに関する法律が施行されたことによる貸倒引当金が多額に計上されていた反動から、当期純利益は大幅に増加している。
- 個人向けにはデジタルバンキングサービスの推進、デビットカード・クレジットカードの新規発行・更新手続きの見直しによる利便性の向上、口座情報や証明書の発行等の銀行サービスを24時間365日受けることができるKIOSK端末の設置拡大など、顧客サービスの更なる向上に注力。
- 2020年1月に施行された年金担保融資に対する法律の影響で個人向け融資が伸び悩むなか、大口企業などの法人向け融資にも注力した結果、法人向け融資が大幅に増加した。また、デジタルバンキングサービスの推進により手数料収入も順調に増加している。

	2020年12月末	2021年12月末	前期比
Customer accounts (預金残高) (百万MNT)	9,583,102	10,824,166	113.0%
Loans and advances to customers (net) (融資残高) (百万MNT)	4,973,034	6,708,257	134.9%

【為替レート】
 2021年12月末
 1円 = 24.74MNT
 2021年1月~12月平均
 1円 = 25.96MNT

(単位:百万円)

商号	エイチ・エス証券株式会社
所在地	東京都新宿区
資本金	3,000百万円
議決権の所有割合	- %
主要事業	第一種金融商品取引業(証券業)

科目 \ 期間	2021年3月期	2022年3月期	前期比
営業収益	3,746	3,479	92.9%
営業利益	561	472	84.1%
経常利益	583	500	85.7%
当期純利益	363	401	110.5%

※ 当期末で連結除外しておりますので、総資産については記載しておりません。

会社プロフィール

- ① 当社の前身であり、国内外の株式・債券・投資信託等を幅広く取り扱うとともに、投資銀行部門も有する総合証券会社
- ② 2007年、証券会社であった当社が持株会社体制に移行する際、会社分割により同社に証券事業等を承継

概況

- 日本国内では新型コロナウイルスの変異株の出現や米国の金利動向等の影響により国内株式市場が伸び悩み、米国ではワクチン接種の進展や政府による2兆ドルを超える経済政策の影響で米国株式市場は好調を維持していたが、2022年に入りインフレ率の上昇による利上げ懸念やロシア・ウクライナ問題などを契機に株価が下落した影響から取引高が減少。結果として、営業収益、営業利益、経常利益は減収減益となった。当期純利益は、前期に減損損失を計上していたことから増益となっている。
- 当期(2021年10月～2022年3月)の引受業務では、一般市場への主幹事上場3社を含めた計19社の幹事参入を果たす。

(単位:百万円)

商号	エイチ・エス債権回収株式会社	<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目</th> <th>2021年3月期</th> <th>2022年3月期</th> <th>前期比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>売上高</td> <td>4,767</td> <td>2,953</td> <td>61.9%</td> </tr> <tr> <td>営業利益</td> <td>270</td> <td>510</td> <td>189.1%</td> </tr> <tr> <td>経常利益</td> <td>154</td> <td>412</td> <td>266.5%</td> </tr> <tr> <td>当期純利益</td> <td>103</td> <td>283</td> <td>272.9%</td> </tr> <tr> <td>総資産 【前期末/当期末】</td> <td>7,518</td> <td>6,899</td> <td>91.8%</td> </tr> </tbody> </table>	科目	2021年3月期	2022年3月期	前期比	売上高	4,767	2,953	61.9%	営業利益	270	510	189.1%	経常利益	154	412	266.5%	当期純利益	103	283	272.9%	総資産 【前期末/当期末】	7,518	6,899	91.8%
科目	2021年3月期		2022年3月期	前期比																						
売上高	4,767		2,953	61.9%																						
営業利益	270		510	189.1%																						
経常利益	154		412	266.5%																						
当期純利益	103		283	272.9%																						
総資産 【前期末/当期末】	7,518	6,899	91.8%																							
所在地	東京都港区																									
資本金	500百万円																									
議決権の 所有割合	100.00%																									
主要事業	債権管理回収業																									

会社プロフィール

- ① 2006年に設立した債権管理回収会社(サービサー)
- ② 現在は債権管理回収業務の他、コンサルティング業務や集金代行業務を展開するなど業容を拡大

概況

- 不良債権市場の継続的な価格高騰と、各金融機関がコロナ禍での不良債権の処分を積極的に行っていないことから買取債権残高の減少が続き、それに伴い債権の回収は堅調ではあるものの減少傾向となり、また、前年度は大型案件の回収が進んだこともあり、相対的に当期は減収となった。一方で、貸倒引当金の算出プロセスの変更による原価の減少(492百万円)、訴訟費用の圧縮などにより営業利益以降は増加している。
- 債権の回収が進むにつれ買取債権残高は減少傾向にあるが、不良債権市場は引き続き高騰が続いている。コロナ禍による金融機関の緊急融資や制度融資についても、徐々に不良債権の発生は懸念されているものの、不良債権市場に供給されるのは今しばらく時間がかかるものと予想される。今後も債権の買取において厳正な査定を行い、収益性の高い債権の取得を目指す。

	2021年3月末	2022年3月末	前期比
債権譲渡額を除いた買取債権の回収 (百万円)	4,123	2,700	65.5%
回収受託手数料(集金代行を含む) (百万円)	109	92	84.6%
買取債権残高 (百万円)	6,931	7,090	102.3%

(単位:百万円)

商号	株式会社外為どっとコム	<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目 \ 期間</th> <th>2021年3月期</th> <th>2022年3月期</th> <th>前期比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>営業収益</td> <td>7,233</td> <td>8,126</td> <td>112.4%</td> </tr> <tr> <td>営業利益</td> <td>2,796</td> <td>3,752</td> <td>134.2%</td> </tr> <tr> <td>経常利益</td> <td>2,915</td> <td>3,813</td> <td>130.8%</td> </tr> <tr> <td>当期純利益</td> <td>2,002</td> <td>2,790</td> <td>139.3%</td> </tr> <tr> <td>総資産 【前期末 / 当期末】</td> <td>134,860</td> <td>142,387</td> <td>105.6%</td> </tr> </tbody> </table>	科目 \ 期間	2021年3月期	2022年3月期	前期比	営業収益	7,233	8,126	112.4%	営業利益	2,796	3,752	134.2%	経常利益	2,915	3,813	130.8%	当期純利益	2,002	2,790	139.3%	総資産 【前期末 / 当期末】	134,860	142,387	105.6%
科目 \ 期間	2021年3月期		2022年3月期	前期比																						
営業収益	7,233		8,126	112.4%																						
営業利益	2,796		3,752	134.2%																						
経常利益	2,915		3,813	130.8%																						
当期純利益	2,002		2,790	139.3%																						
総資産 【前期末 / 当期末】	134,860	142,387	105.6%																							
所在地	東京都港区																									
資本金	778百万円																									
議決権の割合	40.19%																									
主要事業	第一種金融商品取引業 (外国為替保証金取引業)																									

会社プロフィール

- ① 業界最大級の口座数・預り資産を誇るFX取引(外国為替保証金取引)の老舗企業
- ② 2014年より主要通貨ペアにおいて業界最狭水準のスプレッド提供を開始

概況

- 収益単価の高いトルコリラ円においてボラティリティ拡大により取引数量が増加し、また、新興国通貨ペアにおいてスワップ収益が改善するとともに、プロモーションコスト(広告宣伝費)を抑制したため、増収増益となった。依然として、新たな異業種企業の参入により顧客の獲得競争は激化している。
- 今後は、顧客ニーズを反映した取引ツールの改善や魅力的なスプレッドの提示により顧客の信頼を勝ち取り、また、中長期的に安定した収益確保を実現するため新たな収益源の確立に努める。

	2021年3月末	2022年3月末	前期比
口座数 (件)	530,265	570,113	107.5%
預り資産残高 (百万円)	114,000	119,669	105.0%

(単位:百万RUB)

商号	ソリッド銀行(JSC Solid Bank)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目</th> <th>2020年12月期</th> <th>2021年12月期</th> <th>前期比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Net interest income (純資金運用収益)</td> <td>259</td> <td>360</td> <td>138.6%</td> </tr> <tr> <td>Net operating income (純業務収益)</td> <td>870</td> <td>1,039</td> <td>119.5%</td> </tr> <tr> <td>Profit for the period (当期純利益)</td> <td>△112</td> <td>150</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>Total assets (総資産) 【前期末/当期末】</td> <td>8,803</td> <td>8,909</td> <td>101.2%</td> </tr> </tbody> </table>	科目	2020年12月期	2021年12月期	前期比	Net interest income (純資金運用収益)	259	360	138.6%	Net operating income (純業務収益)	870	1,039	119.5%	Profit for the period (当期純利益)	△112	150	-	Total assets (総資産) 【前期末/当期末】	8,803	8,909	101.2%
科目	2020年12月期		2021年12月期	前期比																		
Net interest income (純資金運用収益)	259		360	138.6%																		
Net operating income (純業務収益)	870		1,039	119.5%																		
Profit for the period (当期純利益)	△112		150	-																		
Total assets (総資産) 【前期末/当期末】	8,803	8,909	101.2%																			
所在地	ロシア連邦 ウラジオストク																					
資本金	1,877百万RUB (RUB:ルーブル)																					
議決権の所有割合	46.80%																					
主要事業	銀行業																					

会社プロフィール

- ① ソリッド金融グループの一員で、カムチャツカ地方における最大資産規模の地場銀行であり、ロシア極東地域での事業拡大を推進
- ② 日本・ロシア合併企業の特長を活かし、両国企業のビジネスマッチングやコンサルティング業務を積極的に展開

概況

- 主に法人向けを中心に預金残高及び融資残高が増加した。また、預金金利の低下や個人の定期預金残高減少により預金コストが減少し、人件費等のコスト削減の結果もあり、増収増益となった。
- ロシア経済は、依然として新型コロナウイルス感染症の影響はあるものの、各種制限措置の解除や原油高により実質GDP(1-12月)は前期比で4.7%増加となった。ただし、ロシア・ウクライナ問題を起因とする幅広い経済制裁を背景にロシア経済の先行きは厳しく、今後、ソリッド銀行の業績に影響を与える可能性がある。
- 中堅優良企業への貸出や為替取引・貴金属取引等の非金利収入の増加に引き続き注力。また、不良債権の回収、担保物権の売却、預金コストの削減等により、業務の合理化とともに財務状況の改善に取り組む。

	2020年12月末	2021年12月末	前期比	【為替レート】 2021年12月末 1RUB = 1.57円 2021年1月~12月平均 1RUB = 1.49円
Customer accounts (預金残高) (百万RUB)	5,763	6,022	104.5%	
Loans and advances to customers (融資残高) (百万RUB)	4,737	5,140	108.5%	

(単位:百万KGS)

商号	キルギスコメルツ銀行 (OJSC Kyrgyzkommertsbank)	科目	期間	2020年12月期	2021年12月期	前期比
所在地	キルギス共和国 ビシュケク	Net interest income ※ (純資金運用収益)		236	215	91.1%
資本金	1,000百万KGS (KGS:キルギスソム)	Operating income (純業務収益)		275	295	107.3%
議決権の 所有割合	52.90%	Profit for the period (当期純利益)		23	2	12.0%
主要事業	銀行業	Total assets (総資産) 【前期末/当期末】		5,130	6,800	132.6%

会社プロフィール

- ① 中央アジアの新興国、キルギス共和国に本店を置く銀行
- ② 2017年6月、当社はキルギスコメルツ銀行の株式を取得し、当社グループの一員となる

概況

- キルギス経済は景気回復傾向にあり、預金残高、融資残高はともに増加したが、預金コストの増加により純資金運用収益は減少している。純業務収益は、カード事業などによる手数料収入の増加により増収となった。また、人件費などの増加により当期純利益は減少した。
- キルギス経済は、依然として新型コロナウイルス感染症の影響は残っているが景気は回復傾向にあり、実質GDP(1-12月)は前期比で3.6%の増加となった。ただし、ロシア・ウクライナ問題やインフレ率の上昇により今後のキルギス経済の先行きは不透明。
- 中小企業融資の増加、カード事業やモバイルバンキングなどのリテール事業の強化による非金利収入の増加を図る。

※ 上表のNet interest incomeは、貸倒引当金繰入前の純資金運用収益(Net interest income before recovery of impairment losses on interest bearing assets)を表示しております。また、前年同期(前期)の金額は遡及修正により変更される場合があります。

	2020年12月末	2021年12月末	前期比	【為替レート】 2021年12月末 1KGS = 1.35円 2021年1月~12月平均 1KGS = 1.30円
Customer accounts (預金残高) (百万KGS)	3,389	4,853	143.2%	
Loans and advances to customers (融資残高) (百万KGS)	2,885	3,657	126.7%	

《決算期の異なる会社の取扱い》 当社の決算期(3月期)と異なる以下のグループ会社に関する取扱い

会社名	決算期	連結財務諸表における取扱い／本資料の記載
ハーン銀行 (Khan Bank LLC)	12月	<ul style="list-style-type: none"> ■ 当社の連結財務諸表の作成に当たっては、各行における決算日(12月31日)現在の財務諸表を使用。また、連結決算日との間に生じた重要な取引は、連結上必要な調整を行う。 ■ 本資料のグループ各社の紹介ページでは、2021年1月～12月(又は12月末時点)の状況を記載(現地通貨ベース)。
キルギスコメルツ銀行 (OJSC Kyrgyzkommertsbank)		
ソリッド銀行 (JSC Solid Bank)		

《為替レート》 以下のグループ会社の財務諸表において、現地通貨を円換算する際に使用した為替レート

会社名 【現地国名】	現地通貨	2020年12月期		2021年12月期	
		期末レート (2020年12月末)	平均レート (2020年1月～12月)	期末レート (2021年12月末)	平均レート (2021年1月～12月)
ハーン銀行 (Khan Bank LLC) 【モンゴル国 (Mongolia)】	トゥグルグ (MNT)	1円=27.64MNT	1円=26.39MNT	1円=24.74MNT	1円=25.96MNT
キルギスコメルツ銀行 (OJSC Kyrgyzkommertsbank) 【キルギス共和国 (Kirghiz republic)】	ソム (KGS)	1KGS=1.26円	1KGS=1.39円	1KGS=1.35円	1KGS=1.30円
ソリッド銀行 (JSC Solid Bank) 【ロシア連邦 (Russian Federation)】	ルーブル (RUB)	1RUB=1.41円	1RUB=1.48円	1RUB=1.57	1RUB=1.49円